

# 第13回日本レックリングハウゼン病学会学術大会プログラム

令和4年2月20日(日)

---

10:00～10:02 開会の辞 会長 瀬戸 俊之

---

10:02～10:50 一般演題1

座長：金田 眞理 (国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻  
情報統合医学講座皮膚科学教室)

演題1 当院での神経線維腫症1型のレジストリ登録の現状について

○江原 由布子、吉田 雄一  
鳥取大学 皮膚科

演題2 神経線維腫症1型患者に生じるびまん性神経線維腫の治療の現状と問題点について(第2報)

○古賀 文二<sup>1</sup>、吉田 雄一<sup>2</sup>、江原 由布子<sup>2</sup>、吉永 彬子<sup>3</sup>、高木 誠司<sup>4</sup>、今福 信一<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 福岡大学 医学部皮膚科

<sup>2</sup> 鳥取大学 医学部感覚運動医学講座皮膚科学分野

<sup>3</sup> 京都大学 大学院医学研究科形成外科学

<sup>4</sup> 福岡大学 医学部形成外科

演題3 神経線維腫性象皮症に対し複数回手術を行った1例

○大戎 直人  
大阪市立大学 医学部 整形外科

演題4 PTPN11 変異はRas/MAPK経路を活性化してNF1欠損細胞の悪性進行をもたらす、BRAP変異によって抑制される

○有馬 好美<sup>1</sup>、針谷 律子<sup>1</sup>、武内 俊樹<sup>2</sup>、小崎 健次郎<sup>3</sup>、佐谷 秀行<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門

<sup>2</sup> 慶應義塾大学 医学部 小児科学教室

<sup>3</sup> 慶應義塾大学 医学部 臨床遺伝学センター

---

10:50～11:00 休憩

---

11:00～12:00 特別講演

座長：佐谷 秀行 (慶應義塾大学医学部先端医科学研究所遺伝子制御研究部門)

Changing Care in NF1 with the Advent of MEK Inhibitors

○David H. Viskochil, MD, PhD

Professor of Pediatrics

Director of the Neurofibromatosis Clinic, University of Utah

---

---

12:00～12:30 昼休憩

---

12:30～12:50 新村真人先生追悼企画

座長：太田 有史（東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座）

新村真人先生を偲んで

○谷戸 克己

佃リバーシティ皮膚科／東京慈恵会医科大学

---

12:50～13:05 庶務報告

---

13:05～13:20 会長講演

座長：佐谷 秀行（慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門）

レックリングハウゼン病を有する方々を支えるには

How should we support individuals with NF1 and the families?

○瀬戸 俊之

大阪市立大学大学院医学研究科臨床遺伝学

---

13:20～13:30 休憩

---

---

13 : 30 ~ 14 : 06 一般演題2

座長：若林 俊彦 (医療法人五一六五 ナゴヤガーデンクリニック)

**演題5 神経線維腫症1型患者における深部発生の結節性神経線維腫の手術成績**

○生田 国大<sup>1</sup>、酒井 智久<sup>1,2</sup>、小池 宏<sup>1</sup>、伊藤 鑑<sup>1</sup>、今釜 史郎<sup>1</sup>、西田 佳弘<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup> 名古屋大学 整形外科

<sup>2</sup> 名古屋大学医学部附属病院 希少がんセンター

<sup>3</sup> 名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション科

**演題6 成人神経線維腫症I型患者の中樞神経病変**

○野土 聡司、三野 俊和、武田 景敏、伊藤 義彰

大阪市立大学 大学院医学研究科 脳神経内科学

**演題7 脳神経外科医から見た神経線維腫症1型と視神経視床下部神経膠腫合併症例**

○中条 公輔<sup>1</sup>、川嶋 俊幸<sup>1</sup>、時政 定雄<sup>2</sup>、瀬戸 俊之<sup>2</sup>、岡田 恵子<sup>3</sup>、原 純一<sup>3</sup>、  
九鬼 一郎<sup>4</sup>、國廣 誉世<sup>5</sup>、馬場 良子<sup>5</sup>、坂本 博昭<sup>5</sup>、後藤 剛夫<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 大阪市立大学 脳神経外科

<sup>2</sup> 大阪市立大学 小児科

<sup>3</sup> 大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科

<sup>4</sup> 大阪市立総合医療センター 小児脳神経内科

<sup>5</sup> 大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科

---

14 : 06 ~ 14 : 15 休憩

---

14 : 15 ~ 15 : 15 共催教育講演

座長：瀬戸 俊之 (大阪市立大学大学院医学研究科臨床遺伝学)

**NF1の診療における多科連携及び診療ネットワークの重要性及び今後の展望**

○西田 佳弘

名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科

共催：アレクシオンファーマ合同会社 メディカルアフェアーズ本部

---

15 : 15 ~ 15 : 25 休憩

---

---

15:25～16:01 一般演題3

座長：松尾 宗明（佐賀大学医学部 小児科）

**演題8 当科でレックリングハウゼン病を疑い全エクソーム解析をおこなった症例のまとめ**

○筒井 ゆき、古賀 文二、今福 信一  
福岡大学 医学部皮膚科

**演題9 頸髄硬膜内外腫瘍により脊髄症を呈した神経線維腫症1型の1例**

○國廣 誉世<sup>1</sup>、岡崎 伸<sup>2</sup>、岡田 恵子<sup>3</sup>、馬場 良子<sup>1</sup>、大島 龍之介<sup>1</sup>、九鬼 一郎<sup>2</sup>、井上 岳司<sup>2</sup>、温井 めぐみ<sup>2</sup>、川脇 壽<sup>2</sup>、山崎 夏維<sup>3</sup>、仁谷 千賀<sup>3</sup>、藤崎 弘之<sup>3</sup>、原 純一<sup>3</sup>、坂本 博昭<sup>1</sup>  
<sup>1</sup> 大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科  
<sup>2</sup> 大阪市立総合医療センター 小児脳神経内科  
<sup>3</sup> 大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科

**演題10 化学療法を要した神経膠腫合併神経線維腫症1型の2例**

○西村 圭祐<sup>1</sup>、曾我部 茉耶<sup>1</sup>、左 信哲<sup>1</sup>、馬場 遥香<sup>2</sup>、堀田 純子<sup>1,2</sup>、瀬戸 俊之<sup>1,2</sup>、時政 定雄<sup>1</sup>  
<sup>1</sup> 大阪市立大学 大学院医学研究科発達小児医学  
<sup>2</sup> 大阪市立大学 大学院医学研究科臨床遺伝学

---

16:01～16:10 休憩

---

16:10～17:20 シンポジウム

座長：小崎 健次郎（慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター）

西田 佳弘（名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科）

テーマ：患者・ご家族の不安とどう向き合うか

**小児期の発達、就学について**

○武内 俊樹  
慶應義塾大学医学部小児科・慶應義塾大学病院母斑症センター

**皮膚科の立場からレックリングハウゼン病患者さんとその家族を診る**

○太田 有史  
東京慈恵会医科大学

**NF1患者の生命予後に直結する腫瘍診療のあり方**

○西田 佳弘<sup>1</sup>、生田 国大<sup>2</sup>、酒井 智久<sup>3</sup>、小池 宏<sup>2</sup>、伊藤 鑑<sup>2</sup>  
<sup>1</sup> 名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション科  
<sup>2</sup> 名古屋大学医学部附属病院 整形外科  
<sup>3</sup> 名古屋大学医学部附属病院 希少がんセンター

## レックリングハウゼン病とともに生きる患者・家族の心理社会的支援を考える

○森川 真紀

名古屋大学医学部附属病院ゲノム医療センター遺伝カウンセリング部門

## 不安と向き合い未来へ

○大河原 和泉

レックリングハウゼン病患者会 to smile

---

17:20 ~ 17:25 閉会の辞

---